

DNP

大日本印刷株式会社

機関投資家・アナリスト向け 2025 年 3 月期 第 2 四半期 決算説明会

2024 年 11 月 13 日

イベント概要

[企業名]	大日本印刷株式会社
[企業 ID]	7912
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	機関投資家・アナリスト向け 2025 年 3 月期 第 2 四半期 決算説明会
[決算期]	2025 年度 第 2 四半期
[日程]	2024 年 11 月 13 日
[ページ数]	27
[時間]	13:00 – 13:58 (合計：58 分、登壇：22 分、質疑応答：36 分)
[開催場所]	インターネット配信
[会場面積]	
[出席人数]	
[登壇者]	3 名 専務取締役 黒柳 雅文 (以下、黒柳) 専務執行役員 土屋 充 (以下、土屋) IR・広報本部長 若林 尚樹 (以下、若林)

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



[アナリスト名]*	野村證券	河野 孝臣
	SMBC 日興証券	花屋 武
	大和証券	猪股 彩香
	みずほ証券	齊田 健一

*質疑応答の中で発言をしたアナリスト、または質問が代読されたアナリストの中で、SCRIPTS Asia が特定出来たものに限る

サポート

日本	050-5212-7790	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com



登壇

若林：定刻となりましたので、DNP 大日本印刷、機関投資家・アナリスト向け、2025 年 3 月期第 2 四半期決算説明会を開始いたします。本日の司会は私、IR・広報本部の若林が務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日はたいへんお忙しい中、当社のオンライン説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。本日は説明会資料に沿ってご説明いたします。説明会資料は DNP の Web サイトに日本語版、英語版とも掲載されております。

それでは本日の登壇者をご紹介します。専務取締役・黒柳雅文、専務執行役員・土屋充でございます。

本日の進行ですが、2025 年 3 月期第 2 四半期の決算について、および昨年 5 月に公表しました中期経営計画の進捗状況についてご説明いたします。決算および中期経営計画の財務戦略については黒柳よりご説明し、中期経営計画の事業戦略につきましては土屋より説明させていただきます。その後、質疑応答のお時間を設けています。終了時刻は 14 時を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。

それではご説明に移らせていただきます。黒柳専務、よろしくお願いいたします。

黒柳：専務取締役の黒柳でございます。本日は当社の説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。私から冒頭、今回の 2024 年度第 2 四半期の決算の概要についてご説明差し上げます。時間の制約もございますので、要点を絞ってご説明します。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



【2024年度中間期決算概要】

(単位：億円) **DNP**

	2023年度 中間期	2024年度 中間期	増減率 (差)	2024年度 業績予想	進捗率
売上高	6,937	7,083	+2.1%	14,550	48.7%
営業利益	275	381	+38.6%	800	47.7%
経常利益	374	500	+33.5%	1,000	50.0%
親会社株主に帰属する 中間純利益	762	897	+17.7%	900	99.7%
設備投資額	292	313	+7.2%	740	42.4%
研究開発費	177	184	+3.7%	360	51.2%
減価償却費	262	260	▲1.1%	560	46.4%

概況

- ✓ 注力事業領域を中心とした新しい価値の創出を加速し、売上高は前年から増加
- ✓ デジタルインターフェース関連を中心とした注力事業の拡大や、再構築事業の収益改善が寄与し、営業利益は前年から増加
- ✓ 持分法適用関連会社の業績が堅調に推移したほか、政策保有株式の売却益計上も寄与し、経常利益および中間純利益も前年から増加

2

まず、本日公表いたしました資料の2ページ目をお開きください。このページは、今回の第2四半期決算の概要になり、記載の通り、増収・増益となっております。

特に、売上高が2.1%の増収に対して、営業利益は38.6%の大幅な増益になっています。こういったところが非常に特徴的でございまして、皆様の関心も高いかと思っております。この点を中心に、これ以降の資料でご説明申し上げます。

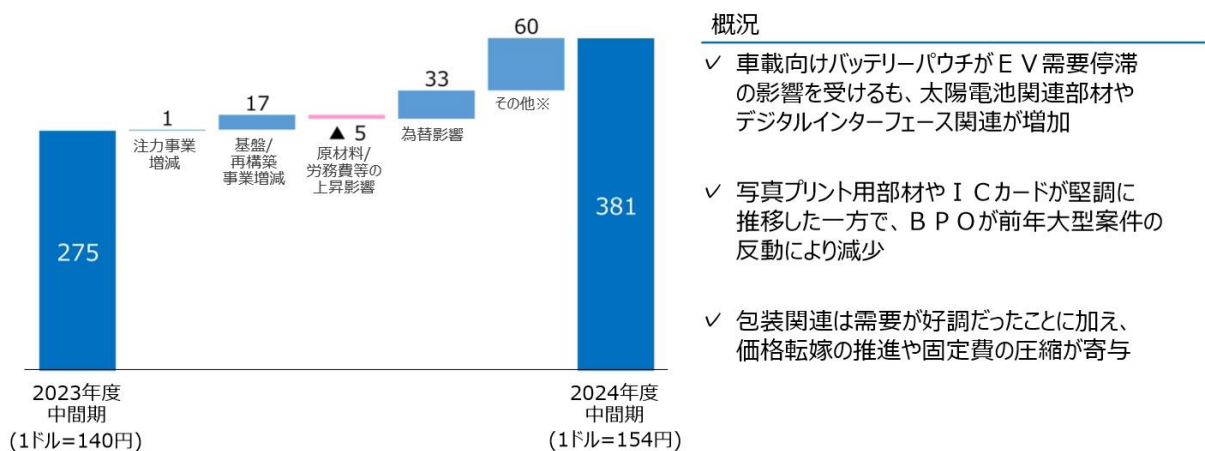
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



【2024年度中間期決算概要】営業利益増減要因

(単位：億円) **DNP**



概況

- ✓ 車載向けバッテリーパウチがEV需要停滞の影響を受けるも、太陽電池関連部材やデジタルインターフェース関連が増加
- ✓ 写真プリント用部材やICカードが堅調に推移した一方で、BPOが前年大型案件の反動により減少
- ✓ 包装関連は需要が好調だったことに加え、価格転嫁の推進や固定費の圧縮が寄与

※ 退職給付費用の減少(+77)、メタルマスク新ライン開発経費等(▲10)、その他セグメントに帰属しない調整額を含む

3

続きまして 3 ページ目をお開きください。こちらの資料は、営業利益の対前年との動きを示す“滝流れ図”になっております。

今回の“滝流れ図”は、四つの特徴があります。

- ・一点目は、注力事業の増減がプラス1億と少なかったこと。
- ・二点目は、「基盤事業」「再構築事業」の増減がプラス17億円と、前期までのマイナスからプラスに転じたこと。
- ・三点目は、原材料・労務費等の上昇要因、これをマイナス5億円で留めることができたこと。
- ・最後、四点目は、「その他の要因」が非常に大きい。

このページでは、「その他」について補足します。この資料の下に「その他」の内訳として退職給付費用の減少を注記しています。これは当社の基金が運用している年金資産が、前期に非常に運用成績が良かったため、数理計算上の差異の償却が大きくプラスに効いたことで、大きな増益の要因になっています。

これ以外の要因につきましては、「セグメント別業績」の資料で補足をしていきます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

【2024年度中間期決算概要】注力事業・基盤事業の概況

(単位：億円) **DNP**

		2023年度 中間期	2024年度 中間期	概況 (矢印は売上高の前年比)	
スマート コミュニケーション 部門	セグメント 売上高	3,505	3,466	イメージング コミュニケーション関連	↑ 写真プリント用部材が欧米・アジア市場などを中心に 好調に推移
	セグメント 営業利益	85	126	情報セキュア関連	↓ キャッシュレス化の進展によりデュアルインターフェイスカード※が伸長も、 BPOは前年の大型案件により減少
ライフ& ヘルスケア 部門	セグメント 売上高	2,317	2,429	コンテンツ・XR コミュニケーション関連	↑ 日本発コンテンツ市場の活況を背景に、米国・サンフランシスコに 「東京アニメセンター」初の海外拠点を開設
	セグメント 営業利益	51	90	産業用高機能材関連	↓ バッテリーパウチはIT向けが増加も、 車載向けが市況停滞の影響を受け減少
				モビリティ関連	↔ DXの推進による事業の拡大を狙い、 ミックウェア社と資本業務提携を締結
エレクトロニクス 部門	セグメント 売上高	1,126	1,197	メディカル・ヘルスケア関連	↑ 創薬開発の支援に向け、韓国NEXEL社と 心筋細胞の培養に関する技術提携を発表
	セグメント 営業利益	250	278	光学フィルム	↑ テレビ用パネルの大型化にともなう出荷面積の拡大 などにより伸長
				有機ELディスプレイ 製造用メタルマスク	↑ スマートフォンでの有機ELディスプレイ採用拡大を 背景に計画通り伸長
				半導体関連	↑ 市場回復に伴い半導体製造用フォトマスクが堅調に推移

※ 1つのICチップで接触型と非接触型の2つのインターフェイスを備えるカード

4

4 ページ目は、当社の注力事業、基盤事業の概況になっております。

今回の特徴は、資料のちょうど中段で矢印が下に向かっている「産業用高機能材関連」について、EV（電気自動車）市場の停滞にともないまして、車載向けのバッテリーパウチが影響を受け、全体として減少している状況です。

現在市場停滞の影響を受けているこのバッテリーパウチですが、今年7月に開催しました「IR-Day」でご説明した通り、自動車の電動化の流れは大きくは変わらないと考えておりますので、市況の回復により、当社の大きな収益源になることは間違いないと確信しております。

また、その下の「モビリティ関連」が最近非常に好調でしたけれども、今回の特徴的な要因として、国内の大手自動車メーカーの認証問題による影響を受けて、この中間期では売上が伸び悩みましたが、下期に関しては、この影響は解消される見込みですので、売上は増加していくと考えております。

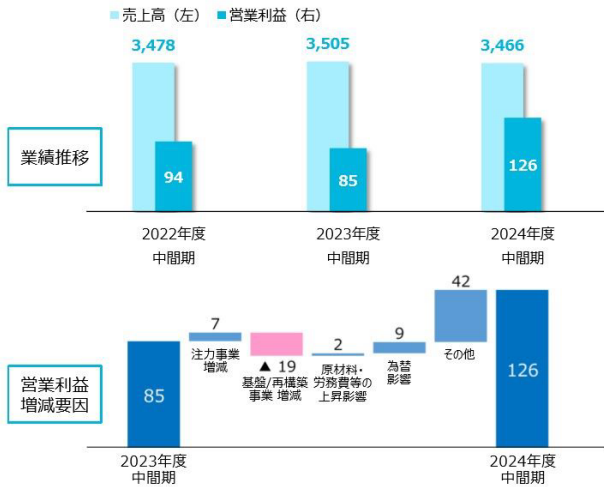
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

【2024年度中間期決算概要】セグメント別業績

(単位：億円) **DNP**

スマートコミュニケーション部門



概況

- ✓ 情報セキュア関連は、ICカードが好調に推移するもBPOが前年大型案件の反動により減少
- ✓ イメージングコミュニケーション関連は写真プリント用部材が好調に推移したほか、国内の写真関連サービスが増加
- ✓ 雑誌や商業印刷等の紙媒体における市場縮小が継続

5

5 ページ目以降は、当社の三つのセグメント別の業績の概要になります。

まず、「スマートコミュニケーション部門」におきましては、紙媒体の市場縮小が続いて、「再構築事業」は厳しい状況が続いております。

今回の特徴として、「注力事業」の増減がプラス7億円となっております。これは当社の「新規事業」である「コンテンツ・XR コミュニケーション関連」がプラスとなったことで、紙媒体は縮小しておりますけれども、デジタル化への移行の中で、「新規事業」が収益を稼ぐ体質に転換してきていることを示しております。

なお、紙メディア事業の合理化につきましては、後半の中期経営計画の進捗状況の中で、土屋からご説明します。

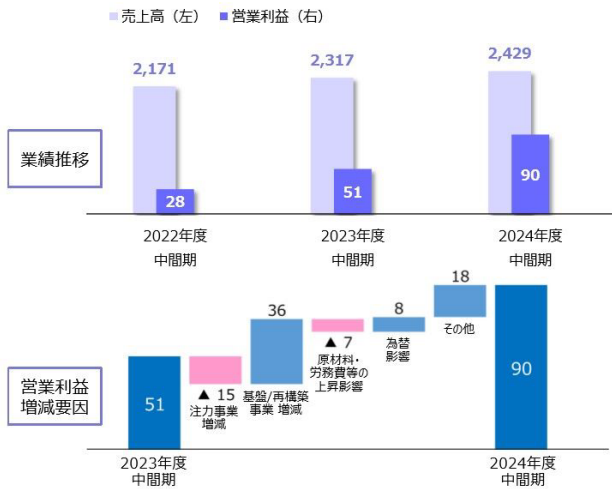
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

【2024年度中間期決算概要】セグメント別業績

(単位：億円) **DNP**

ライフ&ヘルスケア部門



概況

- ✓ IT向けバッテリーパウチがスマートフォンやタブレット端末などの新機種への採用拡大によって伸長したものの、車載向けがEV需要停滞の影響を受け減少
- ✓ 包装関連はスナックや日用品関連の需要が好調だったことに加え、価格転嫁の推進や固定費の圧縮が寄与

6

6 ページ目は、「ライフ&ヘルスケア部門」の概況です。

こちらは増収・増益となりましたが、今期は先ほど申しあげましたように、市況の影響を受けました車載向けのバッテリーパウチのマイナス要因が非常に大きく、「注力事業」はマイナス 15 億円となっている状況です。

しかしながら、今回大きな転換を迎えているのが「再構築事業」です。前期では非常に大きなマイナス要因でしたけれども、大幅なプラスに転じています。こちらは主に包装関連によるものですが、価格転嫁、売上の伸長、そしてコスト構造改革の効果が出てきたことで、非常に大きな収益源になっている状況です。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

【2024年度中間期決算概要】セグメント別業績

(単位：億円) **DNP**

エレクトロニクス部門



概況

- ✓ 光学フィルムはテレビ用パネルの大型化を背景に堅調に推移
- ✓ 有機ELディスプレイ製造用メタルマスクは、スマートフォンへの採用比率拡大に伴い計画通り伸長
- ✓ 半導体製造用フォトマスクは、半導体市場の回復を受け堅調に推移

7

7 ページ目は、「エレクトロニクス部門」の概況です。

こちらも増収・増益でした。ただし、「注力事業」のプラスの効果がこれまでに比べますと少なくなっている状況です。これは、大型メタルマスクの生産ラインの新設という先行投資を行っており、中間期ではまだ償却費負担をカバーできていないためですが、今後の生産増加にともない収益に貢献していく予定になっています。

以上が今回の決算の特徴です。お手数ですが、いったん 3 ページの営業利益の“滝流れ図”にお戻りください。

先ほど、この資料の中で「その他の要因」が非常に大きいという話をしましたが、退職給付費用の減少が今回の増益の大きな要因になっています。このプラス要因がなければ増益はさほど大きくないと懸念されると感じておりますので、この懸念に対する補足をさせていただきます。

セグメント別でも触れたように、いくつかのポイントがあります。「注力事業」につきましては、大型メタルマスクの需要増などに対する先行投資負担がありましたが、下期以降、今後の大幅な需要増に対応し、収益に貢献できる体制を整備しております。

車載向けのバッテリーパウチにつきましても、市況の変化、市況の回復により、また当社の大きな収益源になることを期待しています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

また、成長分野にとどまらず、「再構築事業」に関しましても、皆様から非常に高い関心が寄せられています。「再構築事業」に関しましては、取り組みの効果が始まっていると感じており、先ほどご説明したように、特にこの中間期では包装関連の体質強化などにより、収益を拡大してきていると思っております。

今回の決算にはかなり特徴がありますが、今後に向けての先行投資負担等をカバーしつつ、「再構築事業」の改善効果も始めている状況です。この辺が今回の決算の特徴です。

2024年度業績予想				(単位：億円) DNP					
通期業績予想は変更なし									
【全社】	2023年度実績	2024年度業績予想	増減率(差)	【セグメント別】	2023年度実績	2024年度業績予想	増減率(差)	参考：中期経営計画	
売上高	14,248	14,550	+2.1%	スマートコミュニケーション	売上高	7,194	7,200	+0.1%	7,230
営業利益	754	800	+6.0%	営業利益	261	300	+14.7%	290	
営業利益率	5.3%	5.5%	+0.2%	ライフ&ヘルスケア	売上高	4,723	5,000	+5.9%	5,240
経常利益	987	1,000	+1.3%	営業利益	133	180	+34.9%	210	
親会社株主に帰属する当期純利益	1,109	900	▲18.9%	エレクトロニクス	売上高	2,353	2,400	+2.0%	2,120
ROE	9.8%	8.0%	▲1.8%	営業利益	581	540	▲7.1%	470	
設備投資額	683	740	+8.2%	調整	売上高	▲22	▲50	-	▲40
研究開発費	352	360	+2.2%	営業利益	▲222	▲220	-	▲220	
減価償却費	559	560	+0.0%	合計	売上高	14,248	14,550	+2.1%	14,550
				営業利益	754	800	+6.0%	750	

8

それでは、3 ページから 8 ページに戻りたいと思います。

こちらは 2024 年度の通期業績の予想です。第 2 四半期の実績を踏まえて検討しましたが、今後の地政学的なものを含めての不安要素やリスク、こういったものが多々考えられる中で、今回の決算結果を受けて通期予想は変更しない、据え置きといたしました。

ただ、ここで 1 点補足します。特にセグメント別の「エレクトロニクス部門」の状況について、中間期は増益でしたが、通期ではマイナスを見込んでいます。この辺について補足いたします。

基本的にはこの部門では、伸長する、当社が強みを持つ商材ばかりですので、今後の大きな意味の、大きなトレンドの中での伸びは確信しておりますけれども、この下半期にかけていくつかの懸念事項があります。例えば、在庫調整、中国顧客向けの競争の激化や需要減、こういったものも見込まれます。また一つの要因としまして、昨年の下期が非常に好調であったという反動も想定されます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



こういったことを踏まえまして、現時点で「エレクトロニクス部門」につきましては 7.1%の減益見込みといたしております。

決算業績につきましての私からの説明は以上でございます。どうもありがとうございました。

若林：黒柳専務、ありがとうございました。続きまして、中期経営計画の事業戦略における進捗状況についてご説明いたします。土屋専務、よろしくお願いいたします。



10

土屋：専務執行役員の土屋でございます。それでは説明させていただきます。

中期経営計画の中では、成長投資、基盤構築投資に 2023 年度から 2027 年度の 5 年間で、3,900 億円以上の投資を計画しております。

10 ページの右側は、今まで中期経営計画で主な投資をした内容です。昨年はシミック CMO の子会社化や、先ほどメタルマスクでお話した通り、大型メタルマスクラインの生産ラインを構築したこと、その他、太陽電池用封止材料では泉崎工場（福島県）の生産能力を増強しております。さらには、実際に稼働するのは来年になりますが、広島県の三原西工場に光学フィルムの新ラインを増設することを決定しております。また、これから伸長が予想される半導体のフォトマスクについて、上福岡工場（埼玉県）で生産設備の増強を行っております。

その結果として、5 年間で 3,900 億円の計画に対しまして、今まで 1.5 年が経過したわけですが、進捗率としてはちょうど 30%と、順調に計画通りに進捗しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



また今後、来年は、昨年発表いたしました新光電気への TOB ですとか、そういう大きな投資も控えております。



次は、事業構造改革への取り組みでございます。

中期経営計画では、まず「スマートコミュニケーション部門」の雑誌・書籍等の紙メディアの事業が非常に減少しているわけで、その合理化を発表しております。具体的には、今年の8月に発表したように、出版印刷部門の組織再編として、DNP 出版プロダクツという新しい会社を発足させることを決定しています。その他、商業印刷部門の関東の製造拠点の閉鎖と再編、あるいは固定費の最適化等を実行しております。出版の組織再編については、後ほどもう少し詳しくお話しいたします。

「ライフ&ヘルスケア部門」につきましては、低付加価値製品の見直しと拠点の再編を発表しています。具体的には、包装関連事業の製造拠点である中津川工場（岐阜県）を閉鎖し、それにとまって固定費の最適化を実行しております。

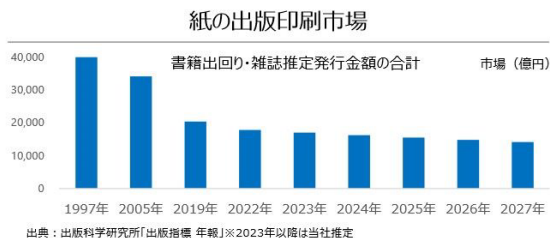
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

出版印刷事業の構造改革の取り組み

DNP

デジタルメディアの普及、消費者ニーズの変化に起因する紙メディアのさらなる縮小に対応するため、生産の合理化をさらに進めるとともに、**出版印刷部門の営業・製版・製造機能を統合した構造改革・組織再編を実施し、**今後も出版文化の継続的な発展に貢献してまいります



構造改革の取り組み

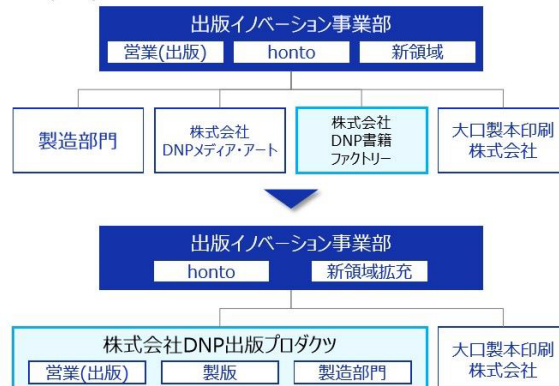
- ✓ 固定費の最適化
- ✓ 原材料費、人件費、物流費の高騰に伴う価格転嫁および低利品の見直し
- ✓ 製版一体となった事業推進体制に移行

構造改革の効果

+ 約20億円

出版印刷部門の組織再編

(株)DNP書籍ファクトリーを事業承継会社として、
営業(出版)・製版・製造を一体化した(株)DNP出版プロダクツに再編



12

次のページは、先ほど申しました出版印刷事業の構造改革の取り組みです。デジタルメディアの普及、あるいは消費者ニーズの変化に起因する紙メディアのさらなる縮小に対応するため、生産の合理化を進めるとともに、出版印刷部門の営業・製版・製造機能を統合した構造改革、組織再編を実行いたします。

12 ページの左の上のように、書籍関連の出版物は著しく減少しております。これに対応するためには、構造改革といたしまして、固定費の最適化ですとか、原材料費・人件費・物流費の高騰ともなう価格転嫁、および低利品の見直しなどについて、製版一体となった事業組織にして着実に実行していくことを目的にしております。本構造改革の効果としては、これは来年度になりますけれども、約 20 億円を予定しております。

具体的な組織としましては、このページの右上にありますように、今までは製造部門と DNP メディア・アートという製版部門、別の製造部門として DNP 書籍ファクトリーがありました。この製造部門・製版部門と、事業部本体にある出版関連の営業を一つの統合会社にして、株式会社 DNP 出版プロダクツを発足させる予定でございます。これによりまして、マーケットとしては減少していくなかで、継続的に出版文化へ貢献していくことを目的にいたしております。

続きましてキャッシュ・アロケーションにつきましては、専務の黒柳から説明させていただきます。

サポート

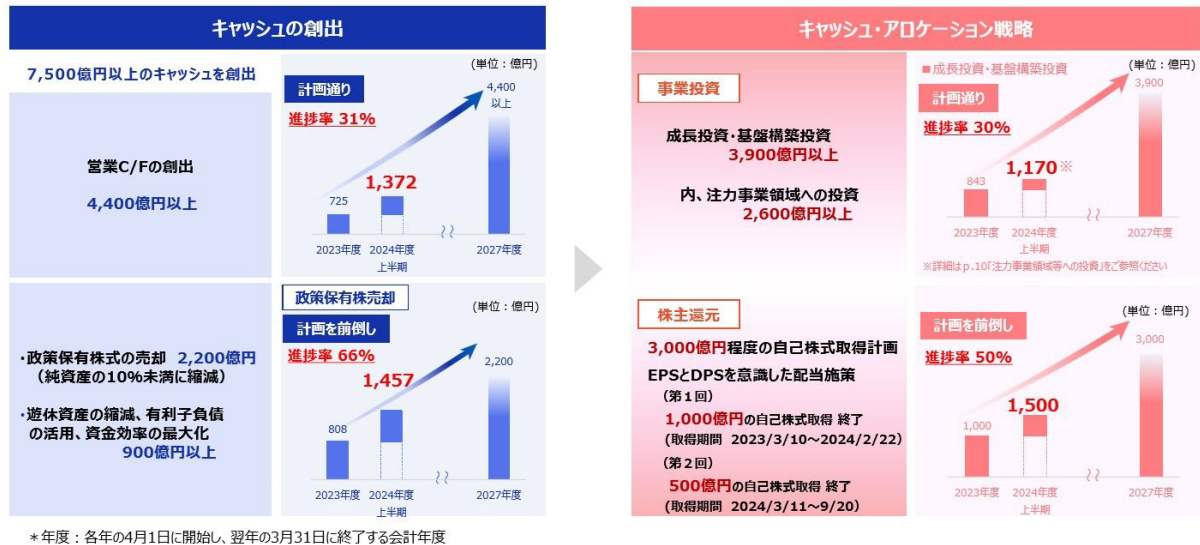
日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

中期経営計画の進捗状況：キャッシュ・アロケーション

DNP

2023～27年度*の5年間 創出したキャッシュを事業のさらなる成長と株主還元に向けて適切に配分



13

黒柳：今回の資料の最終 13 ページで、キャッシュ・アロケーションの進捗状況についてご説明します。

まず、資料の左ですが、「キャッシュの創出」の観点で二点あります。まず、営業キャッシュフローの創出ですが、進捗率は31%と、ほぼ計画通りに進捗している状況です。また、左側の下ですが、政策保有株式の売却につきましても、進捗率66%と順調に進んでいます。ただ、会社としては、順調というだけでなく、今後この下期以降も積極的に取り組んでいきたいと考えており、重要な課題だと認識しております。

この資料の右側は、「キャッシュ・アロケーション戦略」です。まず、事業投資については、先ほど10ページで土屋から説明しましたが、成長に向けた投資、あるいは基盤強化に向けた投資が進捗率30%と、ほぼ計画線にある状況です。また、皆様の関心の高い株主還元、自己株式取得ですが、この18カ月で進捗率50%という状況になっております。

以上が、財務戦略、キャッシュ・アロケーションに関する補足になります。

本日の説明の最後に、私から一点申し上げたいと思います。昨年3月、5月に公表しました中期経営計画、また、その前の2月に公表しました「DNPグループの経営の基本方針」に沿って、「ROE10%」「PBR1倍超の早期実現」に向けて、私たちは精力的に一層取り組んでいきます。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

SCRIPTS
Asia's Meetings, Globally

特に中計に関しましては、ちょうど3カ年の折り返し地点ですが、今後も引き続き頑張っていきたいと考えておりますので、どうぞご支援をよろしくお願いいたします。

どうもありがとうございます。

若林：説明は以上となります。

サポート

日本	050-5212-7790	米国	1-800-674-8375
フリーダイヤル	0120-966-744	メールアドレス	support@scriptsasias.com



免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、SCRIPTS Asia 株式会社（以下、「当社」という）は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて利用者の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して利用者が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasiasia.com

